

～水路と若彦路の里～

かみあしがわ
上芦川

現地散策ガイドブック



笛吹市教育委員会文化財課主催

平成 29 年 6 月 17 日

本日のコース

集合：笛吹市役所八代支所駐車場

※スタート場所まではバスで移動します。

★スタート地点：上芦川東駐車場

※スタート地点から兜造民家を見て、水路沿いに藤原邸にむかいます。



1：藤原邸

※藤原邸から水路沿いに口留番所跡にむかいます。



2：口留番所跡



3：道祖神場



4：東林寺



5：関所跡



6：観音堂



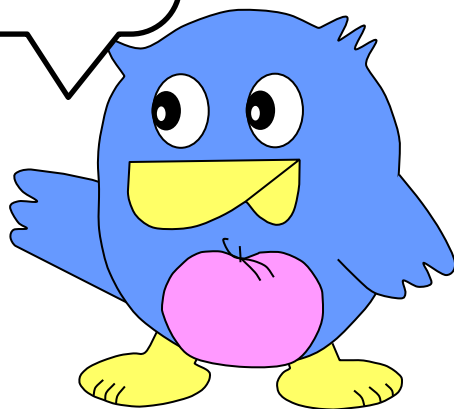
7：馬頭観音群



8：諏訪神社



約 1.5 km の道のりです。坂道になりますので足元に気をつけてください。



★ゴール：おごっそう家

☆ 上芦川散策の 3つのキーワード

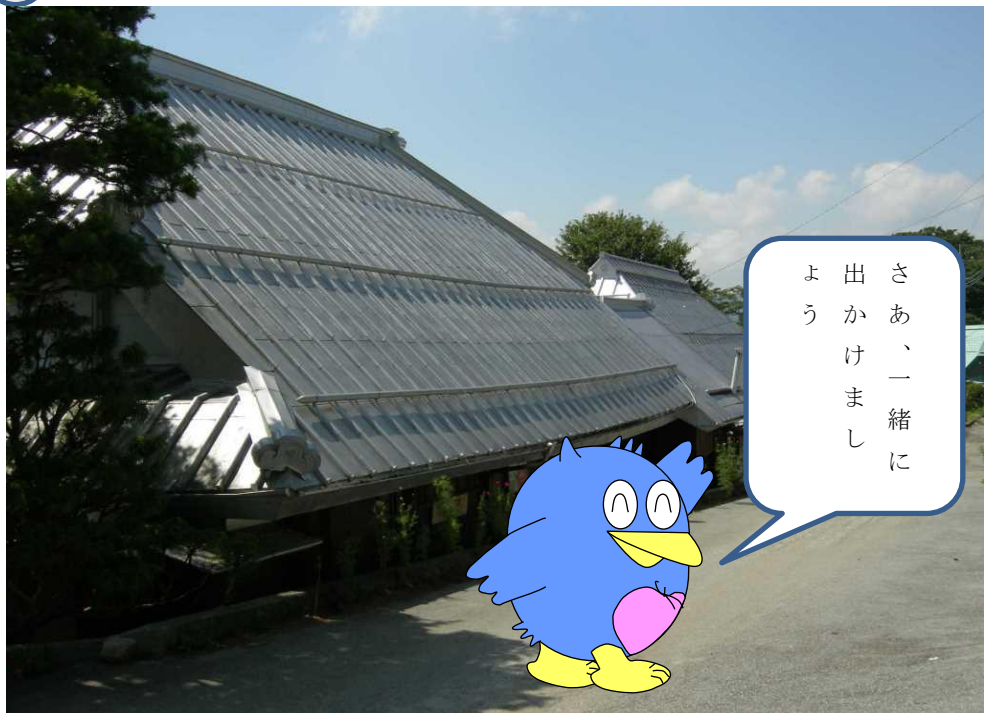
上芦川を散策する時に次の3つに注目すると、より散策を楽しめるとおもいます。

1. 若彦路と関所

2. 上芦川を潤す水路

3. 生活に根付く信仰

～ 題目



第 1 の キーワード

☆ 若彦路と関所

芦川地区の4つの集落は芦川の北側を並行して東西に走る往還（旧市川道、地元では「本道」「上の道」などと呼ばれています。）に沿って広がっています。この往還は上芦川では甲斐（山梨県）と駿河（静岡県）を結ぶ古道「若彦路」と重なります。諏訪神社の境内には、明治36年に中央線が開通する頃まで、沼津で陸揚げされた生魚を甲府に回送する荷継ぎ場があったそうです。

上芦川は交通の要所なので関所が設けられていました。関所は戦国時代に武田家が設置したのが始まりと



石垣の上に造られた民家群

言われていますが、江戸時代の初めには諏訪神社の近くにありました。江戸時代前半の上芦川の集落は関所の周辺に固まっており、関所跡の付近には17世紀に建てられた家が今でも残っています。

江戸時代の初めに関所周辺に固まっていた上芦川の集落は、徐々に東側へ広がっていきました。それに伴い関所は江戸時代の中頃に今の東林寺の東側に移転します。(東林寺もその少し前に諏訪神社の隣接地から現在地に移転しています。)集落が東側に大きく発展していったため、関所(口留番所)と東林寺も中核施設として集落の中心部に移転していったのです。

※このガイドでは江戸時代前半の施設を「関所」、江戸時代後半の施設を「口留番所」と呼んでいます。本来は同一のものです。



往還沿いに広がる民家群

第 2 の キーワード

☆ 上芦川を潤す水路

上芦川の集落は芦川から約 30m も高い場所に立地しており、川の水を使うには不便な場所です。背後の山から沢が何本か下ってきますが、急傾斜のため雨が降ると水が一気に流れ落ちていき、普段は枯れた状態です。こうした水の便の悪いところでの生活や農業に利用する水を確保するため、上流の芦川から約 2km に渡って水路を引きました。水路は芦川に並行して東から西へ、一部は往還沿いに流れます。集落の西側では水路が家並みより上を流れるため、斜面を下る水路が作られました。

水路には「溜桶」と呼ばれる水汲み場を設け、生活用水として利用しました。斜面を下る水路に沿って枝道も作られ、流れ落ちる水の勢いを利用して水車小屋も設けられました。



往還沿いを流れる水路



水路に設けられた溜桶

第 3 の キーワード

☆ 生活に根付く信仰～題目

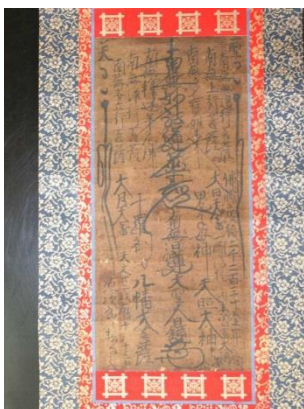
上芦川には日蓮宗の東林寺があり、集落内には「南無妙法蓮華経」の題目を記した「題目塔」が多く見られます。また、上芦川には「題目曼荼羅」を持っている家もあります。

「題目曼荼羅」とは、日蓮が如来、菩薩、明王、天などを漢字で書き表した文字曼荼羅です。日蓮宗では「大曼荼羅御本尊」と呼び、十界の諸仏・諸神を配置していることから「十界曼荼羅」とも呼ばれます。構成は中央に「南無妙法蓮華経」の題目、右上に持国天、右下に広目天、左下に増長天、左上に毘沙門天、題目の両脇に釈迦如来・多宝如来を始めとする諸仏・諸神が配置されます。

上芦川には江戸時代以前の題目曼荼羅がいくつか残されており、古いものは天文 22 年(1553)までさかのぼります。また、題目曼荼羅と同じ構成の祈祷札が住宅に掲げられていたり、諸仏・諸神が家の柱に書かれるなど、生活の中に根付いた信仰を見ることができます。



題目塔



題目曼荼羅



祈祷札

○ 兜造民家

「兜造民家」は、寄棟造あるいは入母屋造の屋根の妻側（短いほうの壁）を切り上げた形の民家です。首の周りに垂れをおろしたかぶと（兜）の形に似ていることから「兜造民家」と呼ばれています。

屋根を切り上げるのは、小屋裏（屋根裏）部分に外の光や風を取り入れるためです。

かつて芦川で盛んに行われていた養蚕は、生活と生産が同一の民家内で営まれていました。そのような条件下で蚕の生活環境を良くするため、小屋裏（屋根裏）を改良し、採光や換気を工夫したのです。

芦川では養蚕が盛んになった19世紀後半以降、それまでの寄棟屋根や入母屋屋根の妻側を切り上げて、兜造りに改築していきました。



兜造民家

○ 藤原邸

藤原邸は、上芦川東村の上段に位置し、現状は桁行 8 間、梁間 3.5 間の寄棟形兜造りの民家です。平成 24 年に修理・再生されました。もとは「ナカノイリ」という屋号の大屋（本家）で名主を務めた家柄です。現状は、東側に土間と馬屋、中央部が居所（イド）、西側に表から座敷、納戸が並ぶ「桁行 3 列上手妻側 2 室」の間取りです。居所と座敷の間には「押板」という床の間状の部屋飾りがあります。調査の結果、西側の押入れと居所・土間・馬屋の北側 0.5 間、土間・馬屋の東側 1.5 間が建築後に増築されていることがわかりました。居所も西側一間分だけの板の間でした。また、中心の大黒柱は、現在は梁のところまでですが、当初は棟を支えていました。こうした間取りや構造の特徴から、藤原邸は 18 世紀の中頃に建てられたものと推定されています。



修理前の藤原邸



修理された藤原邸

○ 「押板」 について

「押板」とは床の間の前身で、壁に厚さ5cm、幅10cm程度の厚板を横にはめ込んで飾り棚のようにしたものです。床の間と違って座敷ではなく、土間に近接した広い板の間（藤原邸の場合は居所）に設けられます。関東地方と山梨県・静岡県 of 江戸時代民家に見られるそうです。芦川では18世紀から19世紀中頃まで見られ、それ以降は座敷に床の間を設けるようになります。



藤原邸の押板

○ 当得院

松尾沢の上流の山林中に小さなお堂「当得院」があります。昔、平家の落武者が上芦川に逃げ込んできましたが、ここで追手に殺されたそうです。近所の人たちで手厚く葬りましたが、その後、疫病が流行し苦しむ人が何人も出ました。これは落武者の祟りだということになり、お堂を建てて盛大に供養したところ、たちまち疫病はおさまりました。その靈験が示されて以来、村人の信仰を集めるようになったそうです。8月28日にお祭りが行われます。



か だ ち
な け ち
所 ど っ
だ 、 と
ね 今 怖
。 は い
静 話



当得院

○ 口留番所跡（江戸時代後半）

口留番所とは一般に言う関所で、要路や国境に設けて、通行人、通過貨物を検査し、脱出や進入に備えた施設です。上芦川は国中地方と郡内地方を結ぶ交通の要所であったため口留番所が設置されました。天保年間（1830～1840）頃にかかれた村絵図には、東林寺の東側に「木戸門」と「柵」、「番小屋」と見られる建物などが描かれています。

口留番所は明治の初めに廃止となり建物は取り壊されましたが、門は東林寺の山門として移築されました。山門の門柱外側には袖壁の取り付けいていた痕跡が残っています。



天保年間頃の絵図（部分）



移築された門

○道祖神場

上芦川の道祖神場は、口留番所跡と東林寺の間にあります。

道祖神場は道祖神祭りを行う場所ですが、普段は道祖神は祀られていません。道祖神は関所跡付近の住宅の裏側で石祠の中に祀られています。祭りのときは、神輿をかついで道祖神の石祠の所に行き、家の当主が身を清めて石祠の御玉名（陰陽の大小2個の丸石）を神輿の中に納め、上芦川地内を練り歩いた後、道祖神場の所定の位置に安置されました。

祭りは1月と7月に行われ、1月は「さいとうぎ」、7月は「四本木」というご神木が立てられたそうです。



道祖神を運ぶ神輿（作成中）



祀られている道祖神



祭りの場に安置された道祖神

○ 東林寺

常榮山東林寺は日蓮宗の寺院で、上芦川にとって古くから中核となる寺院でした、元亀2年（1571）の創建で、始めは諏訪神社の隣接地にありましたが、元禄6年（1693）に現在地へ移転しました。現在の本堂は明治24年（1891）に建立され、正面七間、側面六間の寄棟造りで、茅葺の上に金属板を被せています。本堂の軒先には明和6年（1769）に鑄造された梵鐘が架けられています。

山門は四脚門で、江戸時代の口留番所の通用門を移築したものです。



東林寺参道



東林寺本堂

○七面堂

七面大明神は、七面天女とも呼ばれ日蓮宗において法華経を守護するとされる女神です。七面天女は当初、日蓮宗総本山である身延山久遠寺の守護神として信仰され、日蓮宗が広まるにつれ、法華経を守護する神として各地の日蓮宗寺院で祀られるようになりました。

七面堂は東林寺を守るかのように背後の山の傾斜面に建っています。梁間三間、桁行三間の向拝付切妻屋根の小さなお堂です。お堂の周辺には墓地が広がっており、上芦川の集落を見守っているかのようです。



七面堂



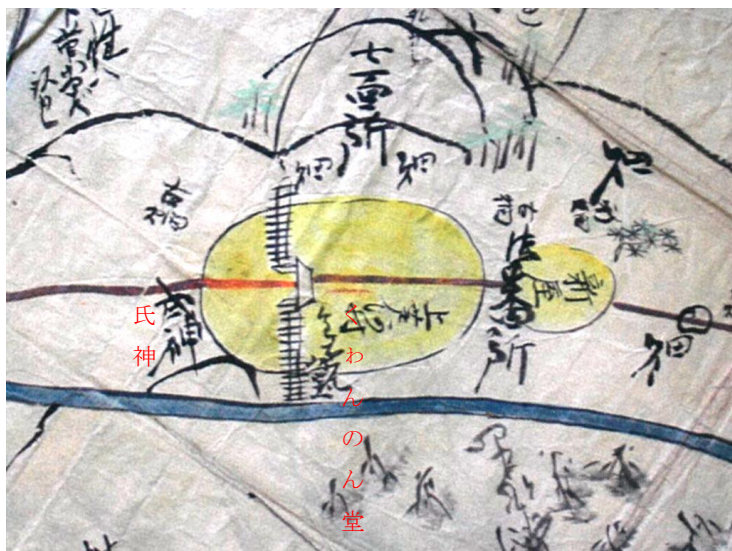
七面堂からの上芦川集落

○ 関所跡（江戸時代前半）

延宝 2 年（1674）頃 に書かれた村絵図には「氏神（諏訪神社）」と「観音堂」の間に木戸門と柵が描かれています。同時に書かれた文書には「上芦川之関所」とあります。また、諏訪神社の東隣にあった屋敷が慶長年間（1596～1615）に番小屋として使用されていたこともわかりました。

以上のことから、江戸時代前半の「関所」は、天保期の「口留番所」より西側にあり、江戸時代中頃に移転したことになる。

「関所」の具体的な場所は明らかではありませんが、観音堂の西側で、往還が直角に曲がる付近にあったと推定されています。



延宝 2 年頃の絵図（部分）



関所跡推定地付近

○馬頭観音

馬頭観音菩薩は畜生類を救い、仏道に導く仏様として信仰を集めてきました。また、馬が交通手段だった時代には、交通安全の意味でも信仰されました。

上芦川は交通の要所なので、往還脇に多くの馬頭観音像が建てられています。特に諏訪神社北側には9基の馬頭観音像が並べられ、旅人を迎えました。



諏訪神社北側の馬頭観音群

○観音堂

関所跡推定地の辻から東側に坂を下っていくと、小さな観音堂があります。中には木造の馬頭観音を祀っています。2月初午の日に、養蚕守護・馬方の安全を祈念して盛大に祭りが行われ、馬の頭尾にしめ縄をして参詣し、繭玉を馬に食べさせて安全を祈ったそうです。



観音堂

☆ いろいろな馬頭観音

往還の脇には色々な馬頭観音が祀られています。どこにあるか探してみてください。



○ 諏訪神社

諏訪神社は上芦川集落の西端、往還の脇に鎮座しています。現在の本殿は明治31年(1898)の水害の後、明治33年(1900)に再建された建物ですが、元禄14年(1701)に建立された本殿の部材を多く使用しており、江戸中期の外観を残しています。神社には慶長17年(1612)の棟札も残っており、境内が荒れていたため神殿を建立したことが書かれています。

本殿 一間社流造、向拝一間、檜皮葺(現在は鞘堂に納められています。)

拝殿 梁間二間半、桁行三間、茅葺入母屋造(現在は赤色の金属板で覆っています。)

境内には樹高が30mを越える太いケヤキが5本あり、笛吹市の天然記念物に指定されています。



諏訪神社境内



天然記念物のケヤキ

上芦川以外にも芦川には昔の人の文化や歴史がたくさん残っています。ぜひ、みなさんで芦川の魅力をたくさん見つけてください。



～水路と若彦路の里～

上芦川現地散策会

笛吹市教育委員会

文化財課

TEL 055-261-3342

芦川町上芦川 (かみあしがわ) てくてくマップ



※茅葺屋根は、ほとんどが金属板を被せています。
民家は人が住んでいる住宅ですので、見学などで敷地内に入る時は、必ず家の人に許可を取ってからにしてください。

上芦川は古くから甲斐と駿河を結ぶ「若彦路」が通る交通の要所だったよ。
戦国時代に武田氏が設けた関所を中心に集落が発展してきたんだ。

